

# 医学部学生が小学生に「いのちを守る知識と技術」を教える

—救命処置法実習を中心とした訪問授業実施報告—

青木昭子<sup>1)</sup>, 後藤英司<sup>1)2)4)</sup>, 西井正造<sup>2)</sup>, 野村明美<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 横浜市立大学附属病院 臨床研修センター, <sup>2)</sup> 横浜市立大学医学部 医学教育学,

<sup>3)</sup> 基礎看護学, <sup>4)</sup> 現代 GP 推進責任者

**要 旨:** 平成18年2月から平成19年2月の1年間に述べ34人の医学部医学科・看護学科の学生が, 教員とともに, 横浜市内の小学校を3回訪問し, 5または6年生に一次救急処置法(BLS: basic life support)を教えた。本取り組みの目的は大学生が(1)小学生とのふれあいを通して異世代間のコミュニケーションの重要性を学ぶこと, (2)「教えること」を通じて, 自らの知識と技術を定着させることである。参加した学生は小学生に対する認識を新たに, 教えることが楽しく, 有意義であったと述べていた。さらに BLS を分かりやすく教えることの工夫のなかで, 自らの知識・技術を深め定着させることができたと振り返る学生が多かった。

**Key words:** 医学部学生, 小学生, 一次救命処置, 訪問授業  
medical student, elementary school student, basic life support, school visit